

生物多様性保全のモデルとなる公園に

錦織公園自然調査研究会 田淵武夫

■ボランティア活動を開始

大阪府宮錦織公園は、府営公園の中でも里山の自然が豊かに残されている公園の一つです。当研究会は、2008年7月に保全協会の研究会として結成し、2009年6月から錦織公園のボランティア登録団体として活動しています。

■調査結果を報告

2009年度の調査結果を報告書にまとめ、2010年5月に、みどり会（指定管理者）および富田林土木事務所公園緑地課が出席のもとで報告会を行いました。

今回行った調査は

- ① ルートセンサスによる植生
- ② モウソウチク伐採地の植生回復状況
- ③ 「きつつきの森」の植生
- ④ 竹林等の拡大状況

の4つでした。

その結果、「市内の他の里山（奥の谷）と比べて植物種数が少なく、外来種率が高いなど植生が貧弱であった」、「モウソウチク伐採地にはアカメガシワなどの幼木が多数芽生えており、引き続きモニタリングが必要である」、「サクラ類が多い『きつつきの森』は下樵りなどを実験的に実施し、管理の方法を検討する必要がある」、「タケが侵入している雑木林があちこちに見られ、早急な対策が必要である」ことなどが明らかになりました。

■調査をもとに提言

これらの結果を踏まえて13項目の提言を行いました。それらの主なものは以下のごとくです。

- 当公園を府民が自然保護について学び考える場と位置付け、里山の生物多様性・自然生態系を保全し、「大阪府生きものとふれあえる都市公園計画」を具体的に実現する。
- 公園内の元水田が存在した谷部に広面積の湿地帯を造成し湿地植生の復元を図る。
- タケが侵入した林で、未伐採地は早急に伐採を開始する必要がある。特に「水映えの森」については早急な対策が必要と考える。
- パークセンターの展示を再検討し、里山の生物多様性・生態系の保全をアピールする。

■今後は他の公園でも

錦織公園は1970年代に住宅開発が計画されていた山林を府営公園としたもので、そのことによって豊かな自然が守られた里山です。しかし一方では舗装園路や広大な芝生広場の造成、頻繁な

草刈管理などによって自然植生に大きな影響が現れてきていると思われます。大阪府内には18ヶ所の府営公園がありますが、それらの公園においても、自然保護の観点から多くの課題が存在するものと思われます。

大阪府土木部公園課と(社)大阪自然環境保全協会は2001年に「大阪府生きものとふれあえる都市公園計画」を公表し、「都市公園は、都市の中にあって自然生態系保全創造の中心的な場としても重要な役割を果たすことも明らかである」、「都市公園施設の中でも自然生態系創出などは、計画・設計・施工・管理の各段階で、行政を地域住民の『協働』がなくては実現不可能であり、・・・」などと述べています。

今後、錦織公園だけでなく府下の公園全体を視野に、他の公園についても調査研究を行い、自然生態系の保全・創出を具体的に実現し、生物多様性保全のモデルとなるような公園を目指して調査・提言活動を行っていきたいと考えています。

「都市と自然」415号（2010年10月）より転載